

	単元名：オリジナルストーリーをみんなに紹介しよう 「物語を作ろう」			
＜ステップ1＞単元として付けたい力を確定する ○年間指導計画（マトリックス表 年間単元重点一覧表）を活用して年間を見通した上で、この単元でどのような力を付けたいのか、学習指導要領の指導事項の中から確定する。	指導事項 ↓ B（1）イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること			
＜ステップ2＞言語活動を確定する ○ステップ1で確定した付けたい力を育成するのにふさわしい言語活動を適切に選定する。指導事項と言語活動を組み合わせて考えることで、付けたい力をできるだけ具体的におさえる。 ○言語活動を位置付けることによって、子ども自身にとっての相手意識や目的意識に応じた学習活動を可能にすることができる。	言語活動 ↓ 新人作家〇〇〇〇の新作発表「◆◆◆◆◆」 ☆想像したことが伝わるように、構成を考え、表現を工夫して物語を書く。			
＜ステップ3＞言語活動を遂行するための能力をリストアップし整理する ○取り上げた言語活動をもとに、付けたい力を具体的なレベルで明らかにしていく。その能力の全てを1つの単元で重点的に指導するのではなく、下記の点のさびわけが必要。 ① 当該単元で重点的に指導するもの ② 前単元までに既に身に付いている能力なので、当該単元では、それを活用させるもの ③ 子どもたちの実態に照らして、まだ指導するのは難しいため、重点的に扱うのは次単元以降に回し、本単元では手厚く手立てをとり、活動が円滑に行われるように支援するもの	必要な能力 ↓ ①＜重点＞創造的に思考し、表現する力			
	②＜既習＞物語の構成を考える力 場面の様子や人物の気持ちが伝わるように物語を書く力 物語が最も強く語りかけてきたことを考える力			
	③＜支援＞			
＜ステップ4＞リストアップした能力を育成する指導過程を構想する ○子どもの実態を十分踏まえた指導過程の構想が大切。陥りがちなのは、「読むこと」において、単元の第三次での言語活動は活発に行えるように指導過程を組むが、第二次で教材文を読む時は、段落ごとに平板に読み進めてしまうというケース。第二次においても、子どもたちの「気になる」「不思議」「調べたい」などといった主体的な思考や判断を生かせるような場の設定が重要。 ○教材を読む第二次では、場面や段落ごとに読み進めるのではなく、指導事項に対応した指導過程を工夫する。 ＜教材を読むポイント＞ 物語文・・・「登場人物の行動」「登場人物の性格」「中心人物の変化」「情景・心情描写」「優れた叙述」 説明文・・・「順序」「中心となる語」「事実と意見の関係」「要旨」「自分の考えを明確にして読む」など	単元計画			
	一次	2時間	①・② 既習の物語を振り返り、表現の工夫（場面の様子や人物の気持ちを表す表現、書き出しの文やラストの一文、物語のしかけ等）について考える。教師のモデル「何気ない一日」を読み、学習の流れを見通し、単元のゴールイメージをもつ。	
	二次	4時間	③ 7枚の中から1枚の写真を選び、選んだ写真をもとに想像を広げ、物語の題名や「時」「場所」「人物」などの物語の構成を考える。 ④ 構成メモをもとに、表現を工夫して物語（「始まり」の場面）を書く。 ⑤ 構成メモをもとに、表現を工夫して物語（「山場」の場面）を書く。 ⑥ 構成メモをもとに、表現を工夫して物語（「終わり」の場面）を書く。文章を推敲する。	
	三次	1時間	⑦ 完成した物語を読み合い、感想を交流する。 学習を振り返る。	